

(日語原文)

近代中日交流史における漢字の社会文化的価値

青山玲二郎

文字は単なるコミュニケーションの道具ではなく、その価値は書道などの芸術分野で美的に評価されてきた。ただし、文字が表語文字である漢字か、表音文字であるアルファベットかによって、文字に付加される価値が異なる。本論文は、中国と日本との間の歴史的交流に焦点を当てて、漢字が日本でどのように言語的価値以外の社会文化的価値を割り当てられて来たかを検討し、東アジアで漢字がどのように機能したかを理解するために表語文字アプローチの必要性を論じる。

David Lurie は”不読テキスト” (alegible text) という概念を用いて日本における漢字の受容を説明している。古代日本列島において、漢字で書かれた文書は読まれるべき対象ではなく、所有者の権力や権威を示す証拠品であった。本研究では、近代に日本人が中国人に遭遇した歴史的記録を検討することにより、漢字に割り当てられた政治的、文化的、美的、商業的価値を類型化し、そのような価値を見出した人々の社会階層や文化背景を分析する。